



弘前大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻 [教職大学院]



教育科学及び教科教育学の諸科学について、精深な教育研究を行うとともに、高度な教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教員の養成を目的とする。

設置コース

ミドルリーダー養成コース
学校教育実践コース
教科領域実践コース
特別支援教育実践コース

課題・目的

学校教育が直面する課題とは？

全国的には…

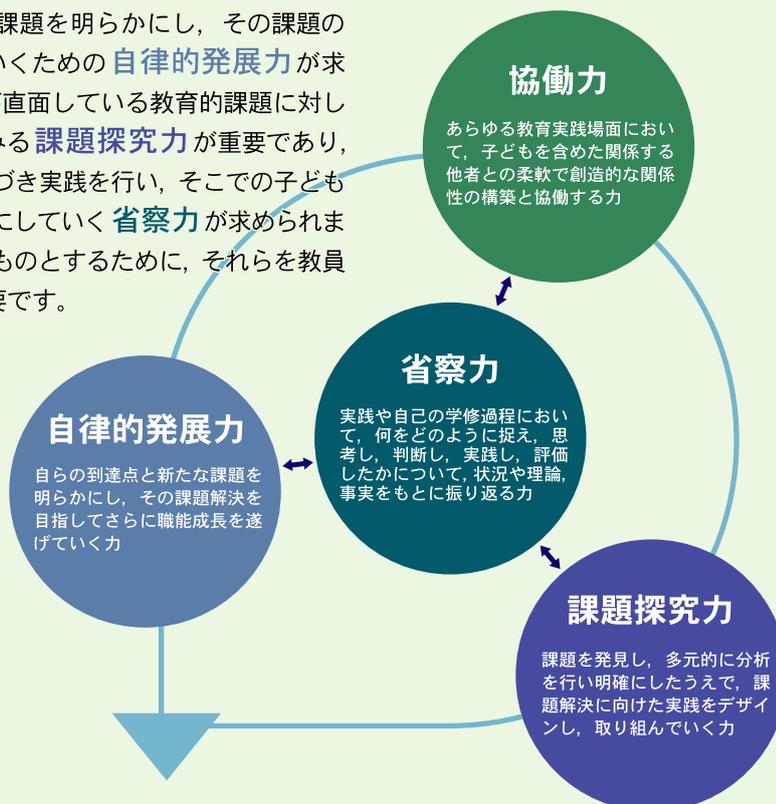
- ☑ 学習意欲や自己肯定感の低さ
- ☑ 特別な教育的ニーズ，社会経済的困難を抱える子どもの増加
- ☑ 学力の格差，人間関係形成力や健康面の不安への対応

青森県では…

- ☑ 豊かな自然を活かした環境教育
- ☑ 短命県返上を念頭においた健康教育
- ☑ インクルーシブ教育システムの構築と推進

いま、教員に求められる4つの力

いま、教員には、自らの到達点と課題を明らかにし、その課題の解決に取り組み、職能成長を遂げていくための**自律的發展力**が求められます。また、学校・社会状況が直面している教育的課題に対して、真の課題を明らかにし解決を試みる**課題探究力**が重要であり、その際、理論的支えを持った根拠に基づき実践を行い、そこでの子どもの実態を踏まえて成果と課題を明らかにしていく**省察力**が求められます。また、課題探究や省察を多面的なものとするために、それらを教員集団として行っていく**協働力**が必要です。



教員に求められる高度な専門性を修得するための場、それが、教育学研究科教職実践専攻[教職大学院]です。

そこには、教員に求められる4つの力を養成するカリキュラムが用意されています。

開設の目的

教育科学及び教科教育学の諸科学について、精深な教育研究を行うとともに、高度な教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教員の養成を目的とする。

■ 設置コース・対象と養成する教員像

コース	対象	修了までに目指すこと
ミドルリーダー養成コース	原則として青森県教育委員会が派遣予定の公立学校教員	校内研修、地域連携、教材開発などの課題に、中心となって他者と共に創造的に取り組むことのできるミドルリーダー
学校教育実践コース	4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みの者	教育課題に対応するための理論と事実に基づいた実践力・省察力を備えた若手教員 特に学校教育・教育方法・生徒指導・生徒理解及び教科外教育についての確かな専門力を持つ若手教員
教科領域実践コース	特別支援学校教諭の一種免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者	特に教科領域教育についての確かな専門力を持つ若手教員
特別支援教育実践コース	特別支援学校教諭の一種免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者	特別支援教育とインクルーシブ教育システムについて確かな専門力を持つ若手教員

特 色

教育課程等の特色

- 1 「基礎科目」「独自テーマ科目」「発展科目」「教育実践研究科目」「実習科目」からなる「理論と実践との往還・融合」を担保するカリキュラム編成
- 2 「独自テーマ科目」として、青森県教育委員会から要望のあった環境教育、健康教育、インクルーシブ教育システムに関する科目を開設
- 3 「教育実践研究科目」「実習科目」は、理論と実践との往還・融合をより確かなものにするために関連性を持たせ、附属学校園や連携協力校、勤務校などでの実習を通して教育課題の追究・解決・検証を実践的に行う

■充実した指導体制

教職実践専攻では、教職大学院の教員を中心としながら弘前大学教育学部の教員や、他学部の教員がチームとなって、手厚い指導を行っています。

教員氏名	主な担当授業科目	
菊地 一文	インクルーシブ教育システムの理論と課題	特別支援教育の授業デザイン
桐村 豪文	教育経営の課題と実践	学校教育と教育行政
甲田 隆	教育相談の理論と方法	特別支援教育の制度と経営課題
小林 央美	学校安全と危機管理	養護教諭の行う健康相談の理論と実践
柴崎 剛吉	学校教育と教員の在り方に関する領域	協働的生徒指導のマネジメント
三戸 延聖	学校安全と危機管理	学校教育と教育行政
穴倉 慎次	教育課程の開発と実践	教育法規の理論と実践
天坂 文隆	学びの様式と授業づくり	授業づくりの理論と実践
中野 博之	学びの様式と授業づくり	数学科教育学特論 I
中谷 保美	学校安全と危機管理	教育実践課題解決研究
藤江 玲子	生徒指導の理論的視点と実践的視点	実践的教育相談の課題と展開
村元 治	インクルーシブ教育システムの理論と課題	個別的教育支援計画・個別の指導計画
森本 洋介	学びの様式と授業づくり	教育課程編成をめぐる動向と課題
吉田 美穂	教育における社会的包摂	現代の学校と教員をめぐる動向と課題
若松 大輔	教育課程編成をめぐる動向と課題	総合的な学習のカリキュラム開発演習

■授業風景

現職院生と学部卒院生が授業の中で議論や協働することで、現職院生は、これまでの取組を振り返る省察の場、先輩を導く能力を高める場とし、学部卒院生は、より深い知識を学ぶ場、現場をプレ体験しながら自身の能力を大きく伸ばす場としています。

授業は、様々な知見や方法のインプット、それをもとにした考察・演習、そしてアウトプット、助言等のバランスを考慮し構成しています。

また、2年間で3回の研究発表（プレゼン）を行います。「教育実践研究とは何か?」「リサーチクエスションの立て方」「質的研究と量的な研究とは」「先行研究・関連論文の調べ方」「仮説と検証」等を段階を踏みながら教育実践研究法の講義と演習を通して学び、実習、ゼミ、ラウンドテーブル等を通して研究を進めていきます。教職大学院全教員で大学院を育てるという理念の元、院生は随時必要に応じて指導教員以外の教員の研究室も訪問し、理解を深めています。



【教育実践研究法】オリエンテーション



【附属学校授業実践省察実習】



【学校安全と危機管理】



【教育実践研究発表会】



※院生の自主的な活動を軸に、教員採用試験支援も行っています。

カリキュラム体系・在学院生の声

教育学研究科教職実践専攻 カリキュラム体系

ミドルリーダー養成コース

校内研修、教材開発等において、創造的に課題に取り組むことを中心として行うミドルリーダーの育成

《修了要件》
46単位以上

学校教育実践コース

教科領域実践コース

特別支援教育実践コース

教育課題に対応するための理論と事実に基づいた確かな実践力・省察力を備えた若手教員の育成

●実習科目 必修10単位

- ・実習ⅠA-1、A-2
- ・実習ⅡA
- ・実習ⅢA
- 特支専修免許取得のための実習
- ・特支実習ⅠA-1、A-2・特支実習ⅡA
- ・特支実習ⅢA

連携協力校、教育関連施設等での実習を通して、課題の把握と仮説形成を行い、勤務校での課題解決の追究・検証を行う

省察

●教育実践研究科目 必修4単位

- ・教育実践研究A・BⅠ
- ・教育実践研究A・BⅡ
- ・教育実践研究A・BⅢ
- ・教育実践研究A・BⅣ
- ※養護教諭の専修免許取得希望者はBを選択
- 特支コース及び特支専修免許取得希望者科目
- ・特支教育実践研究Ⅰ
- ・特支教育実践研究Ⅱ
- ・特支教育実践研究Ⅲ
- ・特支教育実践研究Ⅳ

『学習成果報告書』及び『教育実践研究発表会』において成果の公表

省察

●実習科目 必修10単位

- 実習ⅠB-1、B-2
- ・実習ⅡB・実習ⅢB・実習ⅣB
- 特支コースの実習
- ・特支実習ⅠB-1、B-2
- ・特支実習ⅡB・特支実習ⅢB
- ・特支実習ⅣB

連携協力校を中心とした恒常的な実習等を通して、自己課題解決のための方策について実践、検証を行う

理論と実践の往還・融合

●発展科目 選択8単位以上 (各コース別科目から6単位以上選択)

*はミドルリーダー養成コース科目を6単位以上履修する現職教員院生のみ選択可能

<ミドルリーダー養成コース>

- ・学校の地域協働と危機管理
- ・学校教育と教育行政
- ・教職員の職能成長
- ・協働的な生徒指導のマネジメント
- ・地域教育課題研究(教育課程編成・教材開発)
- ・教育法規の理論と実践
- ・学校保健のマネジメント
- ・学校安全と事故防止
- ・養護実践課題解決研究(発展)

<学校教育実践コース>

- ・教育・社会理論と教育実践
- ・実践的教育相談の課題と展開
- ・地域教育課題研究(授業づくり)
- ・幼児児童教育の理解
- ・養護実践課題解決研究*
- ・学校保健の協働的展開*
- ・養護教諭の行う健康相談の理論と実践*
- ・学校における救急処置活動の理論と実践*
- ・教育心理学特論
- ・教育における社会的包摂の課題研究

<教科領域実践コース>

- ・国、社、教、理、音、美、保、体、技、家、英)
- ・教科教育学特論Ⅰ(10科目)*
- ・教科教育学特論Ⅱ(10科目)*
- ・授業に向けた教材研究Ⅰ(10科目)*
- ・授業に向けた教材研究Ⅱ(10科目)*

<特別支援教育実践コース>

- ・授業づくりの理論と実践
- ・総合的な学習のカリキュラム開発演習*
- ・特別支援教育コーディネーターの役割と課題*
- ・特別支援教育の教育課程の実施と評価*
- ・特別支援教育の授業デザイン*
- ・個別的教育支援計画・個別の指導計画
- ・特別支援教育の制度と経営課題*
- ・発達障害児の理解と対応
- ・病弱児の心理・生理・病理
- ※特別支援学校に勤務、特別支援学校等を担当している現職教員院生は上記の科目の履修可能

●基礎科目 必修18単位

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| ①教育課程の編成・実施に関する領域 | ・教育課程編成をめぐる動向と課題
・教育課程の開発と実践 |
| ②教科等の実践的な指導方法に関する領域 | ・学びの様式と授業づくり |
| ③生徒指導、教育相談に関する領域 | ・生徒指導の理論的視点と実践的視点
・教育相談の理論と方法 |
| ④学級経営、学校経営に関する領域 | ・学校安全と危機管理
・教育経営の課題と実践 |
| ⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 | ・教育における社会的包摂
・現代の学校と教員をめぐる動向と課題 |

●独自テーマ科目 必修6単位

- 地域の教育課題の解決に必要な知識とその実践方法について理論的に学ぶ(県教委からの要望科目)
- ・あもりの教育Ⅰ(環境)
 - ・あもりの教育Ⅱ(健康)
 - ・インクルーシブ教育システムの理論と課題

在学院生の声



教科領域実践コース 2年
猪股 由惟

「伝統やかたちに流されるな。本質を見抜け。」

学部時代からお世話になっている先生からいただき、常に心に留めている言葉です。私は教職大学院で学び、本質を探る楽しさを知りました。現場に出る前にこの教職大学院で学ぶことを選択して本当によかったと感じています。

教職大学院では、講義で理論をインプットし、実習でアウトプットする環境が整っています。この「理論と実践の往還・融合」の過程には、省察があります。「子どもの事実」を見取り、それを基に振り返ることで、自己の実践により深く向き合えるようになります。また、実務家教員、研究者教員、現職の先生方、ストレートマスターと校種も経験年数も異なる方々と一緒に講義を受けたり、演習をしたりします。そのおかげで、多面的・多角的な視点から物事を観ることができるようになりました。

教職大学院の先生方は「全員野球」を合い言葉にされていて、親身になって相談のつてくださいます。私は現在、小学校外国語における言語活動の充実に向け、児童の自由な発話を促す指導の工夫について研究しています。この研究を進めるにあたり、実務家教員の先生、英語教育講座の先生方、教育方法学の先生からもご指導・ご助言をいただいております。授業実践においては、実習校の先生方からもより実践的なご指導をいただき、自己の改善点を明らかにすることができました。このように、多面的・多角的なご指導・ご助言を受け、教科の専門性や授業力を磨きながら自分の興味・関心に基づいた研究を進められることも、弘前大学教職大学院の魅力だと感じています。来年度か、いよいよ現場に立ちますが、2年間の学びを目の前の子供たちに還元できるよう、常に学び続けていきたいです。みなさんもきっと教職大学院で有意義な時間を過ごさずにはいられないと思います。決して楽な道ではありませんが、一緒に学んでみませんか。



教科領域実践コース 2年
瓜生 太知

私は本学の学校教育教員養成課程から進学しました。幼い頃から夢であった教員を目指して大学に進学しましたが、授業や教育実習を通じて自分の授業力や指導力の乏しさから「このまま教員になっていいのだろうか」と悩むようになりました。その中で参加した教職大学院の進学説明会で「理論と実践の往還」というキーワードの元、実習と講義内容をリンクさせながら学ぶことができると説明を受けました。そこで私は、教職大学院で2年間勉強したいと強く思いました。また、その中で不安を払拭し、自信をもって教員になれるのではないかと考え、進学を決意しました。

教職大学院で学んでいく中で感じたことは、実習がとても充実していることです。教職大学院での実習は大きく2つに分かれています。1つ目の実習では幼稚園～高校までさまざまな学校の教育活動を参観し、それぞれの発達段階に合わせた指導の在り方について知見を深めることができました。2つ目の実習では自分の希望する校種の学校に直接伺い、生徒と交流したり授業を実施したりしながら自分の教員としての力を高めたいことができました。さらに、それぞれの実習の間には中間指導という教授の先生や他の院生など意見と交流する時間も設定されており、自分が悩んでいることに対する解決策や違った解釈など様々な知見を得ることができていました。

また、普段の授業では現職の先生方と一緒に授業を受けていくことになりました。その中で実際の現場の話を伺ったり、それを事例として検討を行ったりすることにより実践を意識した授業を受けることができました。

教職大学院に来て1年間学んだことによって、教員という仕事についてより深く理解することができた上に、「来年から教員として働くぞ」という自信が付いたように感じています。残り1年でさらに多くのことを吸収し、より力をつけて教員として働き始めたいと考えています。



ミドルリーダー養成コース 2年
寺山 陽子

数年前、パンフレットで教職大学院の存在を知り興味をもちました。「教科や学校課題について学びたいけれど、何から始めるべきか。」という焦りと、子ども達には「夢を追うことの大切さ」を語るもの「はたして自分は何？」という疑問を感じていたため、思い切った当時の校長先生に相談しました。その結果、今、教職大学院で学ぶことができています。

一年目は、主に知識の幅を広げたり深めたりする貴重な時間となりました。どの授業も、これまでになかった自分の扉を開くきっかけになるものでした。自分のことしか見えていなかった自分に、地域や県、他国の教育といった広い視野を与えてくれました。また、共に学ぶ7人の仲間と出会ったことも財産となっています。他校種、他教科、他地区の先生方と語ることで得た経験は貴重です。自分の考え方の癖や偏りに気づかされました。ストレートマスターの皆さんも鋭い指摘や斬新なアイデアをもらい、「今の自分+1」を心掛けるきっかけになっています。現場で働いている先生方には、今、ご自身が一生懸命取り組んでいることが、数年後の何に繋がっているかを見つけられる最良の機会になると感じています。

二年目になる今年度は、自分の研究テーマを勤務校に持ち帰り、同僚に協力してもらいながら実践や検証を行っていきます。現在、自分の見通しの甘さに直面していますが、同時に、大学院の先生方の強力なサポートを得られる安心感やチャレンジするワクワク感を感じています。ここで学んだからこそ得られる貴重な経験だと思っています。

教職大学院での学びは、間違いなく未知の新たな景色を見せてくれると思います。ここに至るまで、家族や同僚の先生方、大学院の先生方に支援していただきました。本当にありがとうございます。これまでの学びを子ども達達の未来に繋げられるよう、できることを着実に実行していきたいと思っています。

実習のモデルコース

ミドルリーダー養成コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	実習／特実ⅠA-1 (4単位/120時間) 事実の収集の仕方 を学ぶ実習 8時間×5日 (週1~2回) 連携協力校 (附属学校園・県立高校)						実習／特実ⅠA-2 (1単位/30時間) 授業実践省察実習 5時間×3日 (週1回) 連携協力校 (附属学校)					
	事実の収集の仕方 を学ぶ実習 8時間×5日 (週1~2回) 教育関連施設						公開研参加 8時間×2日 以上 連携協力校 (附属学校園)					
2 年 次	実習／特実ⅡA (3単位/90時間) 研修参加 5時間×12日以上(週1回) 連携協力校(附属学校園以外)											
	研修会企画・運営・参加 6時間×2日(週1回) 教育関連施設(青森県総合学校教育センター等)											
実習／特実ⅢA (2単位/60時間) 実習 6時間×10日以上 (月1~2回) 勤務校												
教育実践研究法(教育実践研究Ⅰ)と連携												
教育実践研究Ⅱと連携												
教育実践研究Ⅲ・Ⅳと連携												
教育実践研究発表会												

合計 10単位/300時間 (30時間を1単位とする)

学校教育実践コース・教科領域実践コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	実習ⅠB-1 (1単位/30時間) 事実の収集の仕方 を学ぶ実習 6時間×5日(週1回) 連携協力校 (附属学校園・県立高校)						実習ⅡB (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校(附属学校以外)					
	実習ⅠB-2 (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×5日以上(週1回) 連携協力校 (附属学校以外)						集中実習 6時間×5日以上 連携協力校 (附属学校以外)					
2 年 次	実習ⅢB (3単位/102時間) 学校フィールド実習 6時間×7日以上(週1回) 連携協力校(附属学校以外)											
	集中実習 6時間×10日以上 連携協力校 (附属学校以外)											
実習ⅣB (2単位/72時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校(附属学校園以外)												
教育実践研究Ⅲと連携												
教育実践研究Ⅳと連携												
教育実践研究発表会												

合計 10単位/324時間 (30時間を1単位とする)

特別支援教育実践コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	特別支援教育実習ⅠB-1 (1単位/30時間) 事実の収集の仕方 を学ぶ実習 6時間×5日(週1回) 連携協力校 (附属学校・県立高校)						特別支援教育実習ⅡB (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校					
	特別支援教育実習ⅠB-2 (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×5日以上(週1回) 連携協力校						集中実習 6時間×5日以上 連携協力校					
2 年 次	特別支援教育実習ⅢB (3単位/102時間) 学校フィールド実習 6時間×7日以上(週1回) 連携協力校											
	集中実習 6時間×10日以上 連携協力校											
特別支援教育実習ⅣB (2単位/72時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校												
特支教育実践研究Ⅲと連携												
特支教育実践研究Ⅳと連携												
教育実践研究発表会												

合計 10単位/324時間 (30時間を1単位とする)

県教育委員会等との連携

教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教員の養成に向けて

県教育委員会では、教育施策の方針に「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を掲げ、子どもたちが社会の中で自立した人間として成長できるよう、「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」に向けた学校教育の推進に取り組んでおります。

こうした取組を推進するにあたり、学校教育の直接の担い手である教員には、教育者としての使命感や誇り、子どもに対する教育的愛情などの「人間力」、教科等に関する専門的知識や技能などの「指導力」、家庭・地域社会と連携を図り学校として組織的対応ができる「マネジメント力」、そして、ICTを活用し授業の質の向上を図る「ICT、情報・教育データ活用力」が求められます。

教職大学院では、本県の教育課題を重点的に学ぶことができる科目群の設定や、大学院生一人一人の研究課題に対応できる指導体制の充実など、高度な教育実践を創造し

リードするための資質・能力を備えた教員の養成に取り組まれています。

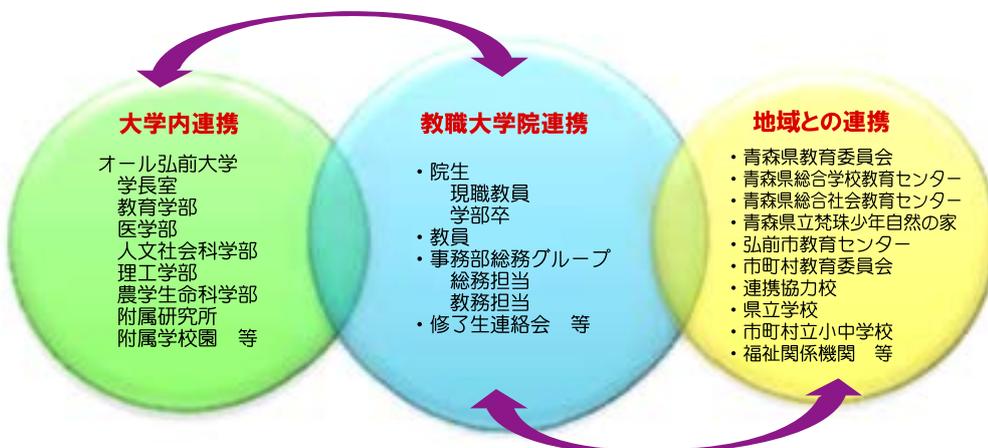
本県の現職教員が、校内研修、教材開発等において、創造的に課題に取り組むことを中心となっていくミドルリーダーになること、また、確かな実践力、省察力を育んだ大学院生が、若手教員として各学校で活躍していくことを切望しております。

そのためにも、教職大学院が研修の場にとどまらず、教員同士のネットワークを形成する場となり、県及び市町村教育委員会と連携しながら、本県教育を理論・実践両面において牽引していく拠点となることを期待しております。



青森県教育委員会教育長 和嶋 延寿

プロフェッショナルチームを拓く協働的運営体制



教職大学院の教育力を地域へ還元する連携協働システム

県教育委員会との連携・協働により、教職生活全体を通じた職能成長の実現

- ▶ 青森県の今と未来をつくる子どもたちを支える教員の資質・能力の持続可能な向上
- ▶ 教職大学院の教育力を現職教員の研修を通して各地域へ還元



青森県教育委員会等との連携による観察実習風景



青森県教育庁

県総合学校教育センター

県総合社会教育センター

県立梵珠少年自然の家

弘前市教育委員会

教職大学院 Q & A

Q 1

今までの大学院修士課程とどこが違うの？

A 1

教職大学院では実習が設定されており、学校課題や教育課題に対応できる理論に基づいた実践力を身に付けることを目指しています。また、修士論文は作成しませんが、2年間の学びを10頁の「学習成果報告書」としてまとめます。

Q 2

教職大学院の学習環境はどのようなになっているの？

A 2

ICT環境が整備された大学院生の共同スペース（院生室）があり、院生一人一人専用のiPad・机などが貸与されます。

Q 3

大学院で新たな免許の取得はできるの？

A 3

「教育職員免許取得プログラム」として、一定の条件を満たしている場合、3年間の長期履修により取得可能な免許があります。ただし、全ての免許の取得が可能わけではありませんし、入学前までの履修状況や免許取得を含め、審査と手続きが必要です。本プログラムを申請される方は、出願前に必ず進学説明会に参加するか「弘前大学教育学部総務グループ（教務担当）」に電話を入れて相談してください。

Q 4

教員採用試験での特例措置とはどんなこと？

A 4

教員採用の自治体により異なります。青森県の場合は、教職大学院に在学中（1・2年次共に）又は修了した場合、一次試験のうち「一般・教職教養試験」が免除されます。また、教員採用試験に合格の上、教職大学院に進学した学部卒院生や在学中に合格した学部卒院生は、一定の手続きにより、大学院修了（最大2年間）まで採用の延期ができます。ただし、合格した出願区分の学校種・教科等の専修免許取得が条件です。

Q 5

推薦特別選抜について教えて？

A 5

2023年9月から2024年3月までに日本の大学を卒業見込みの方が対象です。試験内容は、「模擬授業」を含む「口述試験」を行い、「筆記試験」は免除になります。募集要項をご覧ください。

Q 6

奨学金制度について教えて？

A 6

一定の条件の下適用される奨学金制度が種々あります。どうぞ、ご活用ください。

研究科長メッセージ

教育プロフェッショナルとしての「体幹」を鍛える

弘前大学教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）は、平成29年度に青森県教育委員会の連携協力を礎に設置され、これまで5期82名の修了生を輩出してきました。令和2年度から4コース制（ミドルリーダー養成・学校教育実践・教科領域実践・特別支援教育実践コース〔入学定員18名〕）となり、多様な専門性を有する質の高い教員を養成する体制を整備してまいりました。また院生指導に際しては、専従教員16名に加えて、30名を超える専任教員、学内5研究科3研究所の兼任教員から構成されるオール弘大体制をとり、地域の「知」の拠点である総合大学が有するリソースを活かしたカリキュラムとなっています。

アメリカの社会学者ローティによれば、教職の特徴は、その目的・目標・効果・結果・価値すべてにわたる「不確実性（uncertainty）」にあります。また、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代においては、子どもや学校を取り巻く状況も複雑化かつ多様化してきており、教職をめぐる「不確実性」はより一層高まってきています。こうした「不確実性」と向き合い、子どもたちや社会のウェルビーイング（Well-being）の実現に取り組むためには、教育プロフェッショナルとしての「体幹」を鍛える必要があります。本教職大学院では、育成すべき四つの力として「自律的

発展力」「協働力」「課題探究力」「省察力」を掲げています。多様化・複雑化する教育課題の解決を図るためには、教員一人ひとりが自らの力量を自律的に高めていくことに加えて、立場を異にする様々な人々との協働にもとづき、その課題の本質と解決策を探究し、自らの実践を省察していくことが重要です。特に、理論と実践との往還を通じて、「何を（What）」「どのように（How）」にとどまらず、「なぜ（Why）」「何のために（For What）」という視点から、自らの教育実践を省察していくことが、確固たるビジョンと柔軟な思考・対応をもとに前に進んでいく教育プロフェッショナルとしての「体幹」を鍛える上で、中核的な役割を担っています。

不確実性の高い社会において、多様な他者とともに新たな教育実践を創造しリードしていく教育プロフェッショナルを目指す皆さんの入学を、スタッフ一同、お待ちしております。

弘前大学大学院教育学研究科長
福島裕敏



詳細は、大学ホームページ、学生募集要項をご覧ください。

教職実践専攻 [教職大学院] 募集人員及び選抜方法

コース	募集人員		試験内容
ミドルリーダー養成コース	一般選抜	8名程度	学力検査として「口述試験(入学希望等調書及び教育実践概要の記載内容に関する審査を含む)」を課す
学校教育実践コース 教科領域実践コース 特別支援教育実践コース	一般選抜	10名程度	学力検査として「筆記試験」「口述試験(模擬授業を含む)」を課す
	推薦特別選抜	上記のうち若干名	学力検査として「口述試験(模擬授業を含む)」を課す
	合計	18名	

■学位の名称

教職修士(専門職)
(Master of Education)

■取得できる免許状

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状(各教科)
- 高等学校教諭専修免許状(各教科)
- 特別支援学校教諭専修免許状
- 養護教諭専修免許状

■学費

- 入学金……………282,000円*(予定)
- 授業料……………535,800円(年額)(予定)

教職実践専攻 [教職大学院] 入試日程

	出願期間	試験実施日	合格発表
推薦特別選抜(第1期)	令和5年8月28日(月)～9月1日(金)	令和5年9月30日(土)	令和5年10月12日(木)
推薦特別選抜(第2期)	令和5年11月6日(月)～11月10日(金)	令和5年11月25日(土)	令和5年12月7日(木)
一般選抜(第1期)	令和5年8月28日(月)～9月1日(金)	令和5年9月30日(土)	令和5年10月12日(木)
一般選抜(第2期)	令和5年11月6日(月)～11月10日(金)	令和5年11月25日(土)	令和5年12月7日(木)
一般選抜(第3期)	令和5年12月4日(月)～12月8日(金)	令和5年12月23日(土)	令和6年1月11日(木)

- ※ 合格者数の合計が18名に達した場合、コースによっては以降の募集を実施しない場合があります。
- ※ 今後、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、募集要項の公表後や出願期間後であっても、やむを得ず、試験期日や選抜方法の変更等の緊急措置を実施する場合があります。
- ※ 上記の緊急措置を実施する場合は、ホームページ等でお知らせしますのでご留意願います。

教職実践専攻 [教職大学院] 進学説明会

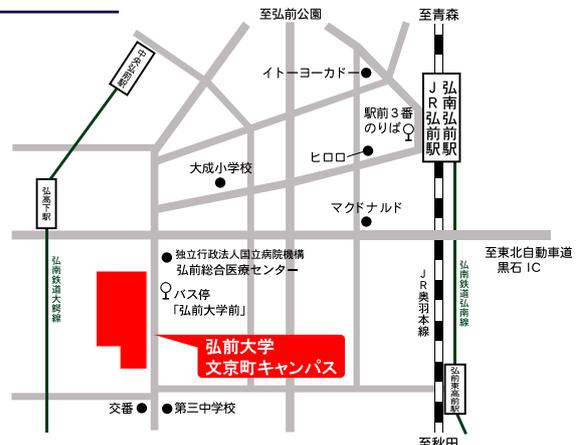
進学説明会	第1回	第2回	第3回	
	令和5年7月26日(水)	令和5年10月25日(水)	令和5年11月29日(水)	16:00～
				弘前大学教育学部を会場に実施予定です。ただし新型コロナウイルス感染拡大によっては、やむを得ず変更する場合があります。その場合は、ホームページ等でお知らせしますのでご留意願います。

ACCESS MAP

JR弘前駅からのアクセス

- (1) 徒歩：約20分
- (2) バス：約10分
駅前3番のりば乗車、「弘前大学前」下車
- (3) タクシー：約5分

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。



HIROSAKI
UNIVERSITY

国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 弘前市文京町1番地 Tel.0172-36-2111 (代表)
<https://www.hirosaki-u.ac.jp>

[連絡先] 担当：教育学部総務グループ Tel.0172-39-3314
教育学部総務グループ(教務担当) Tel.0172-39-3939